

季 刊

生 活

第 5 号



Quarterly: SEIKATSU 5

Issue: Collection

生活工房
Lifestyle Design Center

コレクション

2020

4・5・6

新生活がはじまる季節になりました。
椅子にテーブル、生活用品、服やくつなど
新たな環境にあわせて選ぶとき、
人それぞれの生活のこだわりが
みえてくるものです。

この春、生活工房では1920年代以降の
アメリカの玩具を集めた
「アメリカン・トイズ」展、
手づくりの雑貨やクラフト作品が並ぶ
「世田谷アートフリマ」などを開催します。

「アメリカン・トイズ」の貴重なコレクションや
「アートフリマ」出展作家の作品のなかにも、
新しい生活のヒントがあるかもしれません。

ところで、季刊生活は2年目をむかえました。
これからも発行を重ねてまいります。
ひきつづき、よろしくお願いいたします。

もくじ Contents

- 03 インタビュー 春日明夫
Interview Akio Kasuga
- 08 マイ セタガヤ コレクション
- 09 世田谷のおとなりさん⑤
“世田谷区若林の長谷川さん”
- 10 生活工房のイベント Event Guide
- 16 生活工房のご案内 Access Guide

cover photo: Akio Kasuga

第5号のテーマは、コレクション

生活工房で5月に開催する「アメリカン・トイズ」展では、
子どものためのデザインを研究する
春日明夫さんが集めた玩具のコレクションを展示します。

教員で研究者でもある春日さんにとって、
それらは教材であり、研究対象。
そして教育的な観点から、自身のコレクションを展示することで
玩具の造形的な魅力や
玩具の背景にある社会・文化を紹介しています。



“The Cackling Hen” 1958,
Fisher-Price Toys



この冊子では、
いわゆるコレクターとは性格が異なる春日さんに、
玩具を集めだしたきっかけや
アメリカの玩具の魅力について伺いました。

そのほかに、P8～9では、
世田谷区内にお住まいの
イラストレーターとペインターが登場。
コレクションにちなんだ
お話を紹介します！



教育としての玩具

時代を映し出す玩具

中学・高校、そして大学で教鞭を執る傍ら教材として
6000点あまりの木製玩具を中心に収集してきた春日明夫さん。

壁を覆う無数の玩具に大人もときめく春日さんのアトリエで、
アメリカの玩具をテーマにした
生活工房でのコレクション展について伺いました。

text and photo: 杉本勝彦



——教鞭を執られている東京造形大学で、学生時代は絵画を学ばれた春日さんが、こうした玩具を研究するようになったきっかけを教えてください。

日本の美術史に残るような画家になろうと油絵を学び、卒業制作を首席で買い上げられるような将来を嘱望される学生だったのですが(笑)、画家で食べていくのは難しいだろうと埼玉県の高校の美術教員になりました。その頃は教員をしながらお金を貯めて、外国で芸術の道を極めようと思っていたのですが、その高校には美大志望の生徒もいて、自分を信じて、慕ってくれました。内心では現役合格は難しいと思っていたのですが、合格する生徒もいて、その時はものすごく嬉しくて、先生も悪くないなと思いましたね。その後、東京都の中学校の教員に変わりましたが、当時(1970年代末)は校内暴力など学校が荒れている時代。配属された学校は報道されるくらいひどく荒れた学校でしたが、つっぱっている子たちだって本当はよい子さんですよ。しっかり話を聞き、向き合うと応じてくれる。そういう子たちが熱心に取り組んでくれたのが、動く玩具を作る授業でした。つっぱりでも、絵が苦手な子でも、立体は楽しめるんです。私には敗者復活ができる題材というテーマがあり、例えば粘土は何度も成形し直せるし、木材はきれいに切れなくても磨けばきれいになる。そうやって美術が苦手な子たちのコンプレックスを取り除く授業を開発していると、自分が絵描きになる目標は忘れていて、芸術で身を立てるより、芸そのものを教育する方が自分には向いていることに気がきました。

37歳のときに当時の文部省の内地留学制度によって群馬大学大学院教育学研究科で学ぶことになりました。そこで私が中学で教えてきたことを振り返り、修士課程では創作玩具研究をしたいと思い、子どものためのデザインとして創作玩具の研究に取り組みました。その後、母校の東京造形大学で教えることになりましたが、博士号を取得するために40代後半で再び社会人学生として日本大学大学院博士後期課程に通い、日本で最初に子どものためのデザインとしての玩具研究で博士号を取得しました。

春田さんのコレクション フィッシャー・プライス



- | | | |
|---|------------------------|-----------------------------|
| 1 | フィッシャー・プライス トイズ | Fisher-Price Toys |
| 2 | 1 「ルッキー チュンチュン」 1945年 | 1 "Looky Chug-Chug" 1945 |
| 3 | 2 「ミュージカル掃除機」 1953年 | 2 "Musical Sweeper" 1953 |
| 4 | 3 「バニー ベル ドラムマー」 1949年 | 3 "Bunny Bell Drummer" 1949 |
| 5 | 4 「ビジーバーニー」 1957年 | 4 "Bizzy Bunny Cart" 1957 |
| 6 | 5 「キャッシュレジスター」 1960年 | 5 "Cash Register" 1960 |
| | 6 「スヌーピースニファー」 1961年 | 6 "Snoopy Sniffer" 1961 |

ですから、私の原点にあるのは教育です。玩具も造形教育なんです。特に木の玩具に興味関心があるのは、子どもや学生が自分たちでも作れるからです。目の前の材料を生かして、工夫して作るというのが創造の原点です。工夫する力は問題を解決する力の一つ。子どもの頃から遊びながらその力を身につけることが大切だと考えています。生徒や学生に見せる鑑賞用題材として木製玩具を集め始め、既に6000点を超える量になってしまいました。私は子どもの文化を造形活動や玩具で支援するための専門家であって、決して愛玩や付加価値のためのコレクターではありません。



——生活工房で2018年に行われたメキシコの玩具の展覧会に続き、5月に行う展覧会はアメリカの玩具が中心です。アメリカ北東部のニューイングランド地方の素朴な手作りの木製玩具や1930年にニューヨーク州西部で創業した「フィッシャー・プライス トイズ」(以下、フィッシャー・プライス)など、日本人でもどこか懐かしさを感じられる、こうしたアメリカの玩具との出会いや魅力について教えて下さい。

美術教員になり立ての1970年代は日本の郷土玩具に興味を持っていました。郷土玩具も動くものも多く、また入手しやすいので。先程もお話ししましたが、中学校の授業で動きのある木製玩具を見せると生徒たちがのってきたんです。それらは木材や紙など身の回りにある材料で簡単に作ることもできるものばかり。それで授業の鑑賞教材として、生徒も作ることができるような木製玩具を中心に収集しました。今考えると「動く」というのは私が玩具を集める上でとても重要なポイントかもしれません。世界各国の玩具を見るようになりましたが、ニューイングランド地方の木製玩具は動くものが多いので興味を持ちました。最初は1990年頃で、百貨店の催事でコピー品を見かけて、その催事に出店していたお店に通うようになりました。ニューイングランド地方の木製玩具は意外に簡単に作れそうです。例えばドイツの玩具の精巧さに比べると、簡素な作りで、色の塗り方だってとてもファジー(笑)。それらは、アメリカ入植時代から作られていて、当時の生活場面等がモチーフになっているのが特徴です。

1930年に創業した「フィッシャー・プライス」も、初期の玩具が木製だったことがきっかけで集め始めました。初期はプルトイ(引き車)やプッシュトイ(押し車)の玩具が多いのですが、木材に絵柄の印刷シールを貼って作られています。木を切る人、プリントをデザインする人、プリントを貼る人、組み立てる人という分業が成り立つのはとてもアメリカ的です。そうやって大量生産することで価格を抑え、子どもが手にしやすくしていたようです。そこに古き良きアメリカの優しさを感じさせますね。当時の日本は軍国主義の時代でしたから、同時代にこんなかわいらしい玩具がアメリカで作られているのにも驚きました。現代でもかわいらしいと思えますし、実は私の孫が好きなのも古い「フィッシャー・プライス」なんです。

また、私が「フィッシャー・プライス」を好きなのは、作られる玩具から時代の変遷や社会の変化を感じられるからです。創業当時に片田舎の工場です。木工玩具として作られていたものが、時代を経てプラスチックの工業製品になってくる。それによって複雑な造形が可能になり、戦後のアメリカの家庭に普及した電化製品を模した玩具が作られるようになります。テクノロジーが発達したことでおもちゃのモチーフも変わり、製造法も変わりました。それこそ、玩具作りの教科書のようなメーカーですよ。古き良きアメリカを感じられるのも「フィッシャー・プライス」ですが、私にとって玩具とは何か?というテーマを考えさせるきっかけを与えてくれたのも「フィッシャー・プライス」なんです。

(2020年1月29日、春日さんのアトリエにて)

展覧会情報

東京2020オリンピック・パラリンピックにおいて、世田谷区はアメリカ合衆国のホストタウンとして選手団を迎えます。本展は彼らの国の歴史や生活文化を、アメリカでつくられた玩具を通して伝える展覧会です。展示するのはアメリカの玩具メーカー、フィッシャー・プライス社の製品を中心とした約120点。カラフルなレジスターや掃除機、テレビなど、生活道具をモチーフとしたものが多くあり、玩具にはその時代の流行や暮らしが映し出されています。さらに、建国の地ニューイングランド地方に伝わる風を動力にした木製玩具や、1920年代の貴重な玩具も紹介し、子どもたちのためにつくられた愛らしい玩具から、アメリカのキッズデザインの変遷をたどります。

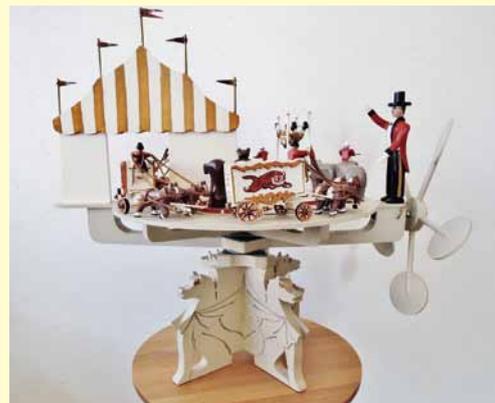
●春日明夫コレクション

アメリカン・トイズ since 1920s ——暮らしと時代を映す玩具展

5.2 (sat) ~ 7.12 (sun) 9:00 ~ 21:00 入場無料

月曜休み(祝日はのぞく) 会場:生活工房ギャラリー

Setagaya City will be the host town of Team USA for the Tokyo 2020 Olympic and Paralympic Games. This exhibition, which showcases toys made in the United States, takes us through its history and lifestyle. Approximately 120 toys are on display, mainly products created by the US toymaker Fisher-Price. Many of them were inspired by everyday items, including colorful cash register, sweeper, and TV toys, and reflect the trends and the way of life in those times. The exhibition also displays a wind-propelled wooden toy from the New England region where the US was founded, along with a valuable toy from the 1920s. This exhibition traces the changes in American kids design by showing the evolution of lovable toys made for children.



「サーカスパレード」
1998年
ラッセル・スノー
“Circus Parade”
1998,
Russell Snow



春日明夫(かすが あきお)

1953年東京生まれ。東京造形大学名誉教授。教育学修士、芸術学博士。専門分野は、チャイルドカルチャーデザイン、キッズサイズデザインなど子どもをめぐるデザインや造形活動を研究している。主な研究内容は、造形教育学的視点から玩具デザイン、玩具文化、造形教育の活動。その研究の一環から世界の玩具・遊具や関係資料を収集している。

Akio Kasuga

Born in 1953 in Tokyo. Professor Emeritus of Tokyo Zokei University. Received a master's degree in education and a doctorate degree in art. Specializes in the study of child-related designs and formative activities, such as child culture design and kids size design. Prof. Kasuga's main study interests are toy design from a formative education perspective, toy culture, and formative education activities. As part of this study, he collects toys and playground equipment in the world and related materials.

コラム マイセタガヤコレクション



イラストレーターの **ヒラノトシユキ**さんは世田谷に引っ越して4年目になりました。日々、散歩を楽しむヒラノさんがとっておきのお店を紹介します。

MY SETAGAYA COLLECTION

text and illustration: Toshiyuki Hirano

世田谷のトレンカ
BRICK LANE

世田谷に引っ越してばかりのころ偶然みつけたお店。



世田谷馬から徒歩1分

このアイスコーヒーは世田谷の店で初めて飲んだこと。お母さんの人とよかった。



本日はワカウる。日だた

#takeoutcoffee-th

人気のショートケーキ



お母さん中学生のころから作っていたお菓子

ほかにも

男性もときめくMENUの盛り



ティンミス

クラウズマン

チョコブラウン

ザハトルテ



店の文字はほかがなかった。

ヒラノトシユキさんのお母さん



お母さん家族

ヒラノトシユキ

イラストレーター。「風が吹きぬけるような気持ちのいい絵」をテーマに日々描いている。現在は雑誌、広告、アパレルなどを中心に活動中。

週1のテニススクールが最近の楽しみ。 <http://www.hiranotoshiyuki.jp>

連載コラム 世田谷のおとなりさん⑤



リッキーさん
ある日のおにぎり

世田谷区若林のリッキーさんは、手描き看板屋さんとして活動中のペインターです。材料探しから加工、ペイントまで手作業。ご自宅兼スタジオには、たくさんの塗料や筆、木材などが置かれていました。この場所では制作がメインで、ほとんど料理はしないそうです。

「帰省した時に母が持たせてくれたんです」と、リッキーさんが冷蔵庫から取り出したのは大きな容器に入った牛すじ煮込み。久々に握るおにぎりは、お母さん手作りの具材が味のポイントです。

「僕の祖父はアメリカ海軍の将校で、戦後に祖母と日本で出会い、母が生まれました」。リッキーさんにとって、ご自身のルーツが制作する上で重要なテーマになっています。「もし、祖父が生きていて、看板屋をやっていたら、こういうの作るかなとか想像します。日々、研究ですね。アメリカの1940~60年代、祖父の時代のものとか意識して制作しています」。見せていただいたコレクションは、アメリカの包装紙。カラフルなパッケージに多彩なタイポグラフィがならんでいました。

今後は制作のほかに、スタジオを公開して、ワークショップを行いたいと語ってくれました。

屋号はおじいさんのお名前からとって“CHARLIE's PAINTING”。ぜひ、SNSでチェックしてみてください。



photo: 河内瑠璃

煮汁はしっかりまじりましょう。

〈つくり方〉

ごはんの中央に牛すじ煮込みをいれて握ります。最後に、お好みでねぎをのせたら完成です。

←牛すじ煮込み(お母さん直伝レシピ)
牛すじ肉は、かたまりのまま鍋に入れて水を加えて30分煮る。アクが出てきたらザルにあげて、水できれいに洗います。鍋に水、一口大に切った牛すじ肉をいれ、弱火で3~4時間煮る。こんにゃく・ごぼう・にんじんをいれて、醤油、砂糖で味付け。最後に味噌少々を加えます。



〈リッキーさんのレシピ〉

- ・お米…1合
- ・牛すじ煮込み…大さじ2
- ・ねぎ…適量

ワークショップ／セミナーの申込方法

- 生活工房ホームページ：各プログラムページの申込フォームからどうぞ↓
- 電話：03-5432-1543
- 往復ハガキ：希望イベント名・希望日時・住所・氏名（ふりがな）・電話番号を明記の上、下記宛先まで
154-0004 世田谷区太子堂4-1-1キャロットタワー 生活工房宛



Exhibition

穴アーカイブ：an-archive

世田谷クロニクル1936-83

3.14 (sat)～4.5 (sun) 10:00～18:00 (金曜のみ20:00まで)

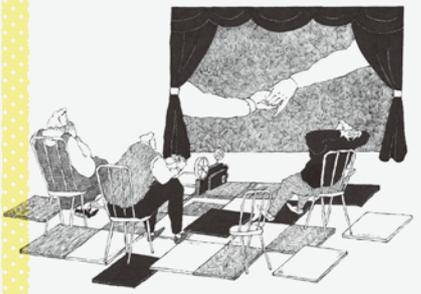
入場無料 月曜休み

会場：ワークショップルームA・B、生活工房ギャラリー

企画制作：remo [NPO法人記録と表現とメディアのための組織]

区内の一般家庭に眠る8ミリフィルムの保存・公開を行う「穴アーカイブ」。これまでに集まった84巻の映像と人々の語りを通して、昭和の世田谷を描き直す展覧会。

illustration: Chisato Nagano



関連プログラム [鑑賞会] 8ミリフィルムを観る〈番外編〉

- ①茨城編 4.3 (fri) 18:30～19:30
- ②鳥取編 4.4 (sat) 11:00～12:00
- ③青森編 4.4 (sat) 15:00～16:00

会場：ワークショップルームA・B

世田谷が映っていない8ミリフィルムを、世田谷で観る。本展企画者がこれまで携わってきた全国の地域映像アーカイブの中から、その一部を公開します。

参加費：各日無料／15名（先着） 申込：不要、直接会場へ

協力：①水戸芸術館現代美術センター、根本英樹 ②HOSPITALE PROJECT
③青森公立大学 国際芸術センター青森

An-archive

Setagaya Chronicle 1936-83

Admission Free Closed on Mondays

Venue: Workshop Room A・B, Seikatsu-Kobo Gallery

An-archive is a project that archives and shows 8 mm films found in Setagaya homes. This exhibition recreates life in Setagaya during the Showa period through the 84 films which have been collected and the stories of the people.



『井の頭公園、功君大学入学時』（昭和36年4月／井の頭公園）
"Inokashira park, Isao's entering ceremony" (April 1961, Inokashira Park)

Event

手づくりアートの“のみの市”

世田谷アートフリマ vol.33

4.18 (sat)・19 (sun) 11:00～17:00 入場無料

会場：セミナールームA・B / ワorkshopルームA・B / 市民活動支援コーナー

2日間で延べ160組のアーティストが集まる“ものづくりの祭典”。手作りの雑貨やアクセサリー、クラフト作品の販売やその場で体験できるワークショップも。

関連ワークショップ (①～③すべて申込不要、当日直接会場へ)

- ①新聞紙を貼り付けて、恐竜「シンブンザウルス」を、みんなで完成させよう!

4.18 (sat)・19 (sun) 11:00～17:00 (途中休憩あり)

会場：セミナールームA・B

大きなはりぼての恐竜に新聞紙を自由に貼り付け、2日間で「愛称：シンブンザウルス」を完成させます。完成したものはアートフリマのホームページで公開します。(1日目は片面張り終わったら終了し、2日目は新聞紙がなくなり次第終了)

講師：小澤榮一 対象：小学生以上 参加費：各日無料／20名程度

- ②簡単☆折り豆本をつくろう!

4.18 (sat)・19 (sun) 11:00～17:00 (途中休憩あり)

会場：市民活動支援コーナー

3cmほどの、小さな本を作ります。「折り本」という、ページを蛇腹折りにして作る方式ですので、どなたでもカンタンに楽しんでいただけます。

講師：九十九耕一 対象：小学生以上
参加費：各日300円(材料費込) / 20名程度

- ③自分の描いた絵でオリジナルトートバッグをつくろう!

4.18 (sat)・19 (sun) 11:00～17:00 (途中休憩あり)

会場：市民活動支援コーナー

自分が描いた絵をスキャンしてシルクスクリーンで製版。その場でプリントして、世界にひとつだけのトートバッグを作ります。

講師：RISOスタッフ 対象：小学生以上
参加費：各日500円(材料費込) / 20名程度

Handmade Art "Flea Market"

Setagaya Art Flea Market, vol.33

Admission Free

Venue: Seminar Room A・B, Workshop Room A・B, Community Corner

160 artists will gather for two days for this festival of handmade items. Visitors can purchase handmade goods, accessories, and crafts, as well as participate in hands-on workshops.



前回の様子
Previous Setagaya Art Flea Market

Exhibition**世田谷アートフリマつながり展 2020**

4.11 (sat)～4.26 (sun) 9:00～21:00 入場無料
月曜休み 会場：生活工房ギャラリー

春と秋の恒例イベント、「世田谷アートフリマ」。
本展は世田谷アートフリマとゆかりのある、さまざまな作家が集う
グループ展です。

共催：世田谷アートフリマ実行委員会

Setagaya Art Flea Market Tsunagari-ten 2020

Admission Free Closed on Mondays
Venue: Seikatsu-Kobo Gallery

The Setagaya Art Flea Market is a regularly held event in spring and autumn.
This group exhibition brings together various artists who have affiliations with
the Setagaya Art Flea Market.

**Seminar****第46回世田谷おはなしネットワーク講演会****絵本と紙芝居と私**

6.23 (tue) 10:00～12:00 会場：セミナールームA・B

絵本作家の活動を行うほか、紙芝居制作や普及にも力を注ぐ
長野ヒデ子さん。数々の絵本を生みだしたこれまでのこと、
現在取り組んでいる活動について伺います。

講師：長野ヒデ子（絵本作家） 主催：世田谷おはなしネットワーク
参加費：100円／20名（抽選）
申込：6月9日（必着）までに往復ハガキ（P10参照）にて

The 46th Setagaya Story Network Lecture**Picture Book, Picture-Story Show and Me**

Venue: Seminar Room A・B

Ms. Hideko Nagano is a picture book writer.
She is also actively involved in producing and popularizing picture-story shows.
She will talk about the background of her numerous picture book creations
and her current activities.



講師：長野ヒデ子
Lecturer: Hideko Nagano

Exhibition**春日明夫コレクション****アメリカン・トイズ since 1920s**

— 暮らしと時代を映す玩具展

5.2 (sat)～7.12 (sun) 9:00～21:00

入場無料 月曜休み（祝日はのぞく） 会場：生活工房ギャラリー

アメリカの玩具を通して、その国の歴史と生活文化を伝える展覧会です。
1920年代の貴重な玩具をはじめとして約120点の玩具製品や作品を
展示します。

監修：春日明夫

関連プログラム**①ワークショップ「風とダンスする人形をつくらう」**

5.23 (sat) ①13:00～14:30 ②15:30～17:00

会場：ワークショップルームA

紙やストローなど身近にあるものを材料にして、風でくるくる回る玩具を
工作します。保護者にご参加ください。

講師：春日明夫（東京造形大学名誉教授）

対象：5歳～小学3年生と保護者の2人1組 参加費：各回500円／
20組（抽選） 申込：5月12日（必着）までにHP（P10参照）にて

②ワークショップ「風はどこへ吹く?! 風見鶏をつくらう」

5.24 (sun) ①13:00～14:30 ②15:30～17:00

会場：ワークショップルームA

紙や針金などをつかって、風が吹くと回転して風向きを教えてくれる
鳥の玩具をつくります。

講師：春日明夫（東京造形大学名誉教授）

対象：小学4年生～6年生 参加費：各回500円／20名（抽選）
申込：5月12日（必着）までにHP（P10参照）にて

③トークイベント「アメリカ玩具とキッズデザインの100年」

6.6 (sat) 14:00～16:00 会場：ワークショップルームA

アメリカの玩具デザインの変遷を辿りながら、造形教育の視点も交えて
子どものためのデザインを語り合います。

講師：春日明夫（東京造形大学名誉教授）、ケイリーン・フォールズ
（デザイナー、イラストレーター） 参加費：500円／50名（先着）
申込：3月25日10:00より電話かHP（P10参照）にて

Akio Kasuga Collection**American Toys since the 1920s**

Exhibition of Toys: The Way of Life and their Times

Admission Free Closed on Mondays

Venue: Seikatsu-Kobo Gallery

Through American toys, this exhibition takes us through the history of
the United States and its lifestyle. On display are approximately 120 toys
and works, including a valuable toy from the 1920s.



ビッグビルペリカン
1961年 フィッシャー・プライス トイズ
"Big Bill Pelican" 1961, Fisher-Price Toys

News

生活工房アニュアルレポート2019

2019年度の展覧会やワークショップ、イベントなどを1冊にまとめた、生活工房の年次報告書が4月18日発行予定です。
「世田谷アートフリマ vol.33」の会場内で限定配布も行います。

Lifestyle Design Center's Annual Report 2019

Lifestyle Design Center's Annual Report, which outlines the exhibitions, workshops, and events held in FY2019, is due to be published on April 18. Limited copies will be distributed at the venue of the "Setagaya Art Flea Market vol.33."



Seminar

朗読講座 豊かなことばの世界

①水曜講座(午前・午後)〈楽しい朗読〉

4.8 (wed)・22 (wed)・5.13 (wed)・20 (wed)

各回10:30~12:30 / 13:30~15:30

講師:岩井正(NHK日本語センター)

作品:長田弘著『ねこに未来はない』

②木曜講座(午後)〈はじめての朗読〉

4.9 (thu)・23 (thu)・5.14 (thu)・21 (thu)

各回13:30~15:30

講師:高橋淳之(NHK日本語センター)

作品:梨木香歩著『家守綺譚(いえもりきたん)』

③金曜講座(午後)〈はじめての朗読〉

4.10 (fri)・24 (fri)・5.15 (fri)・22 (fri)

各回13:30~15:30

講師:金野正人(NHK日本語センター)

作品:夏目漱石著『三四郎』

会場:セミナールームA

ことばの持つ豊さ、力、輝きを「朗読」を通して体感します。
NHK日本語センターアナウンサーが講師となり、声の出し方、読み方などを丁寧に指導します。

受講料(4回分):一般20,800円、せたがやアーツカード会員18,800円 / 15名(申込先着) ※応募者僅少のため、閉講になる場合があります。

問・申込:(一財)NHK放送研修センター

Tel 03-3415-7121(受付時間9:00~18:00) <http://www.nhk-cti.jp/>

Recitation Course: A World of Abundant Words

① Wednesday Course (morning - afternoon): Enjoyable recitation

② Thursday Course (afternoon): Beginners recitation

③ Friday Course (afternoon): Beginners recitation

Venue: Seminar Room A

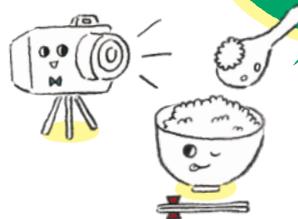
おたがね工房

〈生活工房スタッフからの回覧板〉

計画中の展覧会やイベントに情報提供いただける方を探しています。
ご協力内容の詳細は、電話・返信でお伝えします。
ぜひ、お気軽にご連絡ください。

2020年の正月飾り写真を送って来てありがとう!北海道から沖縄まで、384枚もの写真が集まったよ!もしも送って忘れてた...という人がいたら、今からでもぜひぜひ送ってね~

オリンピック楽しみだねえ、どんなレガシィがのこるのかな~!1964年の"ホストファミリー"も募集中だよ。詳しくはHPをみてね!



ご連絡先

メール info@setagaya-ldc.net

電話 03-5432-1543



クラシー(左) カワルン(右)
生活工房ワークショップルーム
A・コミュニティキッチンをねぐらに、生活工房内をただよみながら探検している妖精。おもしろそうなイベントがあると、ふわふわと姿をあらわします。
illustration: にしほりみほこ

季刊生活とは

もし、みえない誰かの生活と、ここで偶然出合ったら、そこから、何が読めるでしょうか?

何もないようで、いつも何かがかき起きている。

季刊生活はあなたと誰かの日常を、

行ったり来たりする回覧板です。

If you happen to encounter the unseen life of another, what, then, would you discover?

It may feel like nothing, but something is always happening.

Seikatsu Quarterly is like a bulletin board, traveling back and forth between your daily lives.

季刊生活
第5号

発行日:2020年3月15日
編集:生活工房 石山那緒子
編集協力:杉本勝彦
デザイン・編集協力:牧寿次郎
翻訳:株式会社インターブックス
印刷:三永印刷株式会社
発行:公益財団法人せたがや文化財団 生活工房

Quarterly:
SEIKATSU 5

Issue date: March 15, 2020
Editor: Lifestyle Design Center Naoko Ishiyama
Editing Cooperation: Katsuhiko Sugimoto
Design, Editing Cooperation: Jujiro Maki
Translation: Interbooks Co., Ltd.
Printing: SANEI PRINTERY CO., LTD.
Issued by Lifestyle Design Center, Setagaya Arts Foundation

生活工房のご案内

生活工房は

世田谷区が設置したユニークな文化施設です。

デザイン、文化、環境などをテーマに、
展示やイベントを開催しています。

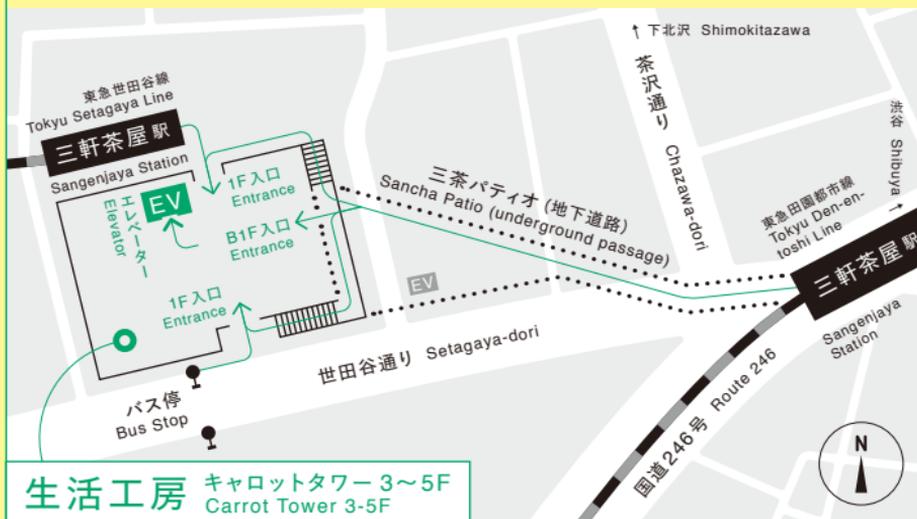
また、コミュニティ・キッチンをはじめ、
展示、ワークショップ、セミナー、ミーティングなどに利用できる
部屋の貸出を行っています。

The Lifestyle Design Center is

a unique cultural facility established by Setagaya city.

Exhibits and events are held on themes of design, culture, environment, etc.

We have a community kitchen and rooms for exhibits, workshops,
seminars, and meetings available to rent.

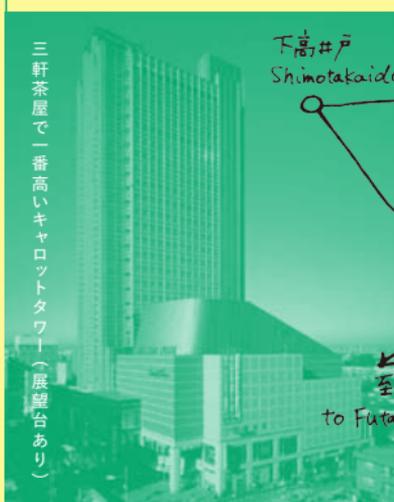


アクセス

- 東急田園都市線「三軒茶屋」駅 三茶パティオ口 徒歩5分
地下通路より1F入口またはB1F入口（東急ストア入口の右隣）に
入り、キャロットタワー内のエレベーターをご利用ください。
- 東急世田谷線「三軒茶屋」駅直結
- 東急・小田急バス「三軒茶屋」停留所そば

Access

- Tokyu Den-en-toshi Line: 5-minute walk from the Sancha Patio exit at Sangenjaya Station
Subway passage: 1F or B1F entrance, take the elevator inside Carrot Tower
- Tokyu Setagaya Line: Directly connected to the Sangenjaya Station
- Tokyu Bus, Odakyu Bus: Located near the Sangenjaya Station stop



お問い合わせ (公財) せたがや文化財団
世田谷文化生活情報センター

生活工房

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
Tel. 03-5432-1543 Fax. 03-5432-1559
Mail. info@setagaya-ldc.net

Contact

Lifestyle Design Center

Setagaya Arts Center
Setagaya Arts Foundation

Carrot Tower, 4-1-1 Taishido,
Setagaya-ku, Tokyo, 154-0004

<https://www.setagaya-ldc.net>

[Twitter](#) [Facebook](#) [Instagram](#)

